

日本医療薬学会 第5回フレッシュャーズ・カンファレンスに参加して

17A039 加藤武瑠

愛知学院大学薬学部臨床薬学講座

【概要】

2022年6月12日、武蔵野大学 武蔵野キャンパスで開催された「日本医療薬学会第5回フレッシュャーズ・カンファレンス」にオンラインで参加し、講演の聴講、発表に対する質疑を行い、研究の意義や研究者の責務について学んだ。

【教育講演会】

教育講演では、山本康次郎先生（群馬大学医学部附属病院教授・薬剤部長）の「科学研究とはどのような活動か」を聴講した。研究を立案する上で考慮すべきこと、研究活動を継続する上で知っておくべきこと、研究の価値を高める手法について以下の点を学ぶことができた。

- ①研究成果の信憑性を証明するための最低限の義務として「実験ノートに研究の過程を記録する」、「対応する生データを保管する」があること及び適切なノートの作成方法
- ②研究成果に対する責任者を明確にすること
- ③論文を適切な作成方法（投稿規定）
- ④考察を考える上で自らの言いたいことを論理的に説明するために単に考えたことではなく、「結果」を根拠にして論じること
今後の自身の学会発表に活かしていきたい。

【口頭演題】

口頭演題では北里大学薬学部の発表者による「血清シスタチンCを用いた地域医療における腎機能評価の質的研究による実態解明」についての演題に興味をもった。

本演題では地域医療での活用事例が明らかではない血清シスタチンCの普及状況をするため、腎機能評価による薬物療法の適正化を目指した。全国の薬剤師を対象にアンケート調査を実施し、シスタチンCの普及は進んでいなかったが、実際の評価の有無に関わらず血清シスタチンCによる腎機能評価を行う必要があると回答した薬剤師がいたことが分かった。

本演題で、シスタチンCによる腎機能評価の普及の重要性が実感できた。自身の研究では、血清クレアチニン値を用いた腎機能評価の実施状況を調査したが、今後はシスタチンCによる腎機能評価の実施状況も調査を行っていきたいと考えた。

【ポスター発表】

ポスター発表ではクオール薬局 いのはなテラス店の薬剤師による「腎機能を根拠とした疑義照会における重要度別の処方変更についての検討」の発表を聞き、薬局の背景の違いが疑義照会内容に与える影響について質問した。

クオール薬局いのはなテラス店は、近隣の千葉大学病院の検査値付きの処方箋を受け付けており、診療所の門前薬局に比べて腎機能を根拠とした疑義照会が多いということだった。薬局における疑義照会データを分析する際に薬局の背景を考慮する重要性を改めて実感した。

現在行っている研究で、疑義照会内容を分析する際に今回学んだ内容を活かしていきたい。